

平成 30 年 8 月 2 日

職員有志がセリフを完全英訳。

## シベリア抑留をテーマにしたドキュメント映像の英語字幕版

### 『Detention in Siberia “Memories of a new military recruit”』を公開

福生市では、戦争の記憶を後世に伝えるべく、「記憶のアーカイブプロジェクト」を立ち上げ、2018年2月には、シベリア抑留をテーマにした市内在住者のドキュメント映像『行き先も、分からずに～20歳の初年兵、シベリア抑留の記憶～』（以下：本編）を公開しました。

このたび、プロジェクト第二弾として、本編のセリフを有志職員が英訳した『Detention in Siberia “Memories of a new military recruit”』（以下：英語字幕版）及び、取材映像のノーカット版『行き先も、分からずに～20歳の初年兵、シベリア抑留の記憶～証言篇』（以下：証言篇）を追加制作しました。

両映像は、8月2日(木)から市ホームページとYouTubeで公開しました。

#### ■ 英語字幕版を通じて、シベリア抑留の記憶を世界へ

本編は、2月の公開以来、再生回数 3543 回、総再生時間 3 万 3 千分(平成 30 年 8 月 1 日時点)を超え、多くの方にご覧いただけてきました。

映像へのアクセスの約 6%は海外からのもので、国外視聴者の需要も見込まれることから、市では 4 月中旬から「英語字幕版」の制作を行ってきました。

字幕は、企画者でもある有志職員が 2 か月半かけ、約 9,000 文字のセリフを英訳しました。また、出来上がった英訳はネイティブスピーカーに確認をしてもらうことで、文法や表現の精度を高めています。

本編のように、自治体がシベリア抑留をテーマとした動画を制作すること自体が珍しい例ですが、さらに英訳を行うのはほぼ例のない事業です。

市では、引き続き映像の活用を進めながら、国内外を問わず、改めて多くの方にシベリア抑留に関心を持ってもらいたいと考えています。



英訳を担当した森田典子(市職員・左)と英訳のチェックに協力してくれた Sonya White さん(右)

#### ■ 取材時のノーカット映像「証言篇」も追加公開

また、英語字幕版の公開に合わせて、本編には編集の都合上入らなかった映像を、ノーカット映像としてまとめた「証言篇」も同時公開しました。

「証言篇」は、出演者の近田明良さんの言葉を余すことなく映像に残すことで、未だ全容の解明に至らないシベリア抑留の証言資料として、研究者などに役立てていただくことを目的に制作しています。



## 【公開した映像の概要】

### 〈タイトル〉

▼英語字幕版『Detention in Siberia“Memories of a new military recruit”』(約 37 分)

※内容自体は 2 月に公開した本編と同一のものです。

▼ノーカット版『行き先も、分からずに～20 歳の初年兵、シベリア抑留の記憶～証言篇』(約 89 分)

〈公開日〉 8 月 2 日(木)

〈公開先〉 福生市ホームページ、及び YouTube 公式チャンネル「福生市メディアラボ」

(URL : <https://www.youtube.com/user/FussaCityHall/>)



〈映像のあらすじ〉 1945 年、当時 20 歳だった近田明良さん(市内在住)は、学徒動員で満洲へ。終戦後、ソ連による武装解除を受け、極寒の地での強制労働に駆り出される。1948 年 12 月、日本から 1 万 km 離れたウクライナでの労働を経て、遂に日本に帰国。92 歳となった今、その当時の記憶をカメラの前で語る。

〈制作〉 秘書広報課広報広聴係・職員有志

〈制作期間〉 3 か月

〈製作に伴う費用〉 0 円



「英語字幕版」映像中の画像①



「英語字幕版」映像中の画像②

※リリース内の画像は提供が可能です。詳細は、お問い合わせください。

【問合せ】 秘書広報課広報広聴係・池田 ☎042-551-1529